

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 4 月 12 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470103189		
法人名	社会福祉法人広島常光福祉会		
事業所名	グループホーム げんき福田		
所在地	広島市東区福田五丁目1168番の1 (電話) 082-899-7588		
自己評価作成日	平成25年1月19日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成25年2月19日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>施設全体の日当たりが良く、明るく温かい雰囲気と清潔感がある。家庭的な雰囲気の中で、入居者一人ひとりの能力を活かし、職員は入居者の出来ない事をサポートする形で支援を行なっている。三ヶ月に一度家族を交えてカンファレンスを行なっている。その都度、入居者の生活状況をお伝えし、入居者・家族の希望を取り入れて介護計画の見直しを行い、日々のケアに反映させている。また町内会に加入し、交流行事・ボランティア慰問等、地域との強い関係を保っている。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームげんき福田（以下、ホーム）は、山陽自動車道のインターチェンジすぐ側に位置し、自然環境に恵まれたホームです。地域交流が活発に行われ、地域と綿密な関係を築いておられます。家族と入居者の絆を大切に、きめ細かい目標を作成し、職員間で意識統一を図り日々理念に照らし合わせた支援をされています。ホームでは、隣接するクリニックと医療連携体制契約を結ばれ、医療面でも充実した施設となっています。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営（1階）					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員の話し合いにより、利用者の日々の快適な暮らしに不可欠な要素として『おいしい・たのしい・こちいい』が取り上げられ、グループホームの独自の理念として掲げ、実践している。職員会議で実施状況を検討、改善につなげている。	ホーム独自の理念を、さらにきめ細かくした日々の目標を作成し、朝礼、申し送り時に確認されています。職員間で徹底した意識統一を図り、理念の実践につなげられています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、町内清掃や各種行事へ準備も含めて参加し交流を深めている。地区の役員を務め、役員会に参加し、地域との情報交換を行っている。	町内会に加入し、順次回ってくる役員も努められています。町内清掃、とんどの竹切りなど地域行事に積極的に参加し交流されています。ホームの行事には、ボランティアとして地域住民の参加協力があり、強い連携を保っておられます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	職員に認知症サポーターを2名配置し、認知症の人の理解や支援方法を、地域の人々に向けて活かせるよう備えている。事業所見学会（相談会）を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者の家族、地域代表、公民館館長、消防署、地域包括支援センター等、多くの関係者の参加を得て、2ヶ月ごとに1回開催し、意見をサービス向上に活かしている。	会議は2か月ごとに開催されています。家族、地域代表、地域包括支援センターの参加があります。活動報告や情報交換と合わせ、意見や要望などを受けておられます。毎回、法人内の専門職や出前講師などによる勉強会も行われています。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議で事業所の実績やケアサービスの報告を文書にて定期的に行なっている。市町担当者には、案内状、電話連絡を行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議の案内、報告を行い、勉強会には出前講師として協力を得るなど、関係づくりに積極的に取り組まれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>虐待防止と合わせて、身体拘束の勉強会を行い、職員の意識を統一し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。鍵を掛けることの弊害は理解しているが、玄関の外はすぐに階段になっている為、危険防止の為玄関ドアはロックしている。</p>	<p>年に2回勉強会を行い必要に応じてチェックシートを活用するなど、職員の意識統一を図られています。言葉かけによる抑制にも配慮され「毎日の目標」に照らし合わせながら理念に掲げる「ここちいい」を大切に、抑圧感のない自由な暮らしを支援されています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止の勉強会を設けている。年2回職員で身体拘束について、細かい項目のアンケートを行い、日々のケアの振り返りを行なっている。また利用者の身体的な変化に、各職員が報告書を提出し、防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>広島市の出張講座を利用し、定期的に勉強会を開催している。また家族関係者に周知し、活用できるよう支援している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時、解約時には、契約書、重要事項説明書をもとに、利用者や家族などの不安や疑問点を聞きながら、十分な説明を行ない、同意書をいただいている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>サービス担当者会議や運営推進会議にて、入居者の個別担当者、管理者が家族の意見・要望を聞き、全職員に周知し運営に反映させている。外部者として、苦情相談窓口を設置しており、意見を表せる機会を設けている。</p>	<p>訪問時や3か月に1度のカンファレンス、家族会など、入居者や家族が意見や思いを伝える機会を数多く設け、綿密な関係を築かれています。出された意見や要望は、職員全体で共有、検討し、日々のケアや運営に反映されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は常に職員とのコミュニケーションを取り意見を聞いている。日々朝礼、伝達ノートを利用したり、定期的にアンケート実施や職員会議で意見、提案を収集し検討して現場へ反映させている。	日常的にコミュニケーションが取られ、職員の意見や要望にはその都度対応されています。毎月の職員会議、年2回の個人面談、定期的なアンケートなど職員の思いを把握するために、さまざまな取り組みをされています。盆や正月の勤務についても法人全体で検討されています。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	各職員の勤務状況を把握し、年2回人事考課を行なっている。面接を経て、評価を賞与に反映し、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	各職員の能力に応じて、外部研修の参加を推薦、内部勉強会を定期的に行い、スキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホームの外部研修などで仲間作りを行い交流する機会を設けている。法人内でも相互研修を行いながら交流をしており、サービスを向上させる努力をしている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	面談時、アセスメント表等を使用し、生活の中での不安や困っている事を十分に聞くようにしている。サービス利用開始時期には、特に気を配ってコミュニケーションを取るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用前の見学や入居時に、十分な話が出来た時間を設け、グループホームでの生活について、不安な事や困りごとを聞き、アセスメント表に記録し、求められている事を把握するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受ける際には、利用者の状態と共にグループホームを希望している場合が多い。面談にて他のサービスが必要な場合には、家族と十分な話し合いの上で、他の支援機関への連絡、利用への援助を法人パンフレット等使用し、行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活では本人のペースを尊重し、職員は寄り添う形の介護を行なっている。人生の先輩として、教え教えられ、助け合いの精神を重んじ信頼関係を築いている。また認知症の勉強会を行い、暮らしを共にする支援方法を学び活かしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員と家族によって、入居者の生活を支えているという共通認識を持っている。職員が利用者、家族の役割を奪わないよう利用者と家族へ連絡、相談を心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前の生活環境を把握し、本人の生き方、大切にしてきたものを理解する。家族や親戚、友人に遊びに来てもらえるよう声掛けを行なっている。また手紙や電子メールを利用し、遠く離れた家族や、知人に連絡をとる機会を設けている。	入居前のアセスメントにより、これまで培ってきた人間関係、大切にしていることが継続できるよう支援されています。家族との連絡はメール、電話、ファックス、手紙など、一人ひとりの状況に応じたきめ細かい支援をされています。家族の協力を得て、毎週帰宅する入居者もおられるなど、職員と家族がともに馴染みの関係の継続に努められています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の関係を考慮して、リビングの席位置を決めている。利用者が孤立しないように、集団レクへ参加を促している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	グループホーム退居後は、法人内の施設を利用する事が多い為、必要時にはいつでも連絡が取れる体制になっており、家族の相談、支援に努めている。行事等での関わりも多くある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者一人一人の希望を、生活へ反映できるように、細かい聞き取りを行い、希望の把握に努めている。困難な問題も施設の問題として取り上げ、前向きに検討している。	理念に照らし合わせ、一人ひとりの「おいしい」「たのしい」「ここがいい」を日々のケアの中で丁寧に拾いあげています。家族との綿密な関係を築きながら、家族からの情報の把握にも努められています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者、家族からはもちろんのこと、本人が関わった居宅や施設から情報提供してもらい、生活歴等アセスメント表等へ記録し、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日のサービス内容を、個別のケース記録へ項目別に行ない、心身状態、能力の把握に努めている。また朝昼夕に申し送りを行い、入居者の現在の状態把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>三ヶ月に一度カンファレンスを行い、本人・家族と話し合い、意向・希望を取り入れている。主治医や看護師等の意見も参考に介護計画を作成している。</p>	<p>担当職員を中心に介護計画を作成されています。面会時などに家族の意見を聞き、3か月ごとにカンファレンスを開催して入居者、家族、主治医などの意見を聞かれています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>介護計画の実施状況を日々チェックし、詳細の記録を行なっている。1か月毎のモニタリングを行い、継続が困難な場合は見直しを行なっている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人・家族の希望に対しては、本人・家族の状況を踏まえて、可能な限り実現できるよう努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>ボランティアとの交流や地域行事に参加している。近隣スーパーへの買い物や理容院を利用し、地域資源の活用を行なっている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>隣接のクリニックが協力医療機関であり、本人・家族の了承を得てかかりつけ医となっている。事業所と良好な関係を築き、適切な医療を受けている。</p>	<p>本人、家族の了承のもと、かかりつけ医はホームに隣接するクリニックとされています。希望に応じて外部の医療機関へも家族同行にて受診され、連携を取られています。訪問歯科を利用する入居者もおられます。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>協力医療機関と訪問看護の契約をしており、入居者と馴染みのある看護師が、入居者の健康管理を行なっている。職員の相談に対しても助言をしてくれる。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した時にはグループホームでの生活状況を情報提供している。入院中も医療機関、家族との連絡を密に取り、早期退院に向けた話し合いを行ない記録している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>契約時に重要事項説明書にて、ホームとしての指針を、家族・本人に説明し同意を得ている。協力医療機関ふくだクリニックと医療連携体制契約を結び、支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化した場合の対応に関する指針を作成し、契約時に本人、家族に説明されています。状況の変化に応じて、その都度、話し合いをもち、本人、家族の希望に添いながら可能な限りホームでの支援に取り組まれています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>緊急対応、事故防止の勉強会、緊急連絡網の訓練を行なっている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>防火管理者を選任し、外部研修に積極的に参加している。非常災害の勉強会を行い、実際の避難方法を日中夜間を想定して訓練している。地域とは防災協定を結び協力体制を築いている。</p>	<p>地域と防災協定を交わされています。年2回、消防署立ち合いのもと地域住民の参加を得て避難訓練を実施されています。ホーム独自で非常災害時について勉強会を行い、夜間を想定した訓練を定期的にされています。また、併施設設との協力体制も整えられています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者一人ひとりのプライドやプライバシーを損ねない様、個別に応じた声掛けや対応を行なっている。入居者の人格をより尊重し、プライバシーを損ねない様、プライバシー保護の勉強会を行なっている。	勉強会を行い職員間で意識統一に努められています。申し送りなどの際には、入居者の耳に入らないように配慮したり、排泄表などの記録物は目に触れないよう閉じておいたり、ケア以外の場面においてもプライバシー保護を徹底されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中で、職員は常に入居者の希望を聞きながら支援するように努めている。決定事項があれば、入居者と相談し、意向を可能な限り取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の身体的・精神的ペースを考え、入浴・食事・外出などの生活を送ってもらっている。職員は入居者の言葉を傾聴し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎日同じ服装にならないように、季節や行事などに合った服装で過ごせるよう支援している。外出の機会を設け、おしゃれができるよう出張美容を利用して、パーマや毛染め等、好きな髪型を楽しむこともできる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	それぞれの得意分野で、調理、配膳、準備、片付けを行なっている。日曜日には利用者アンケートにてメニューとおやつを決めている。	おやつは、毎日、入居者と職員が作ってられます。2週間に1回「フリーメニューの日」を設け、昼食、夕食は個々に好きなものを選んで食べられています。味や盛り付け、量などにも配慮し、入居者が「おいしい」と思えるような食事に努められています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	それぞれの食事形態や、介助方法などを職員間で統一し支援を行なっている。食事量の少ない方は、本人の嗜好も取り入れながら摂取量が上がるよう努めている。		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	食後には口腔ケアを促している。本人の能力に応じて、見守りから介助を行なっている。必要があれば、協力医療機関へ往診を依頼している。		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	排泄チェック表を利用し、それぞれの入居者に合わせたパターンを検討し、排泄誘導を行なっている。排泄前のサインなど、職員で情報共有し失敗等を少なくするよう努めている。	排泄チェック表を利用し、トイレでの排泄支援に努められています。パット使用の場合でも日々見直し、状況に応じて使用を中止したり、種類を変えたりされています。一人ひとりの夜間と日中の変化に対してもきめ細かい対応をされています。	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	個別に水分補給や運動を取り入れ、ヨーグルトやヤクルト等を摂取している。必要であれば温罨法、腹部マッサージを行なっている。		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	入浴日は時に決めていない。入浴時間は日曜日以外の午後となっているが、その日に入浴を希望される方と相談しながら時間を決定している。	入居者の希望を尊重した入浴を支援されています。入浴が困難な場合には、時間帯や職員を変えるなど一人ひとりに合わせた試みがなされています。介護度が重い入居者は職員が2人態勢で対応するなど、安心、安全な入浴に努められています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	一人ひとりの生活習慣に合わせて、日中の活動を促し、生活のリズムを整え、安眠できるよう支援している。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	敷地内に薬局があり、薬の用法等について定期的に指導があり努めている。服薬後の利用者の状態を申し送るシステムがある。新しい薬や、変更があった場合には、医師・薬剤師・看護師から用法・用量・注意点を聞き、伝達ノートで伝達を行なっている。症状の変化・確認も申し送り伝達し、記録へ残している。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	利用者の得意分野を活かし、毎日のレクリエーションを取り入れている。日常生活の中でも入居者皆で出来ることや、個人で出来ることを探し、共に喜びのある生活を送っている。嗜好品も可能な限り提供できるよう支援している。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	散歩をはじめ、行事としてドライブや買い物へ出かけている。利用者、家族の希望を会議で把握し、行事へ活かしている。家族や地域の協力を得て、外出支援を行なっている。	敷地内を散歩したり、近所のポストに手紙を投函に出かけたりして、日常的に外出を支援されています。隣接するクリニックへリハビリのため通院したり、介護タクシーを利用して外出に出かけたり、一人ひとりの希望に添った外出支援に取り組まれています。家族の希望により、ヘルパーを利用される入居者もおられます。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	一人ひとりの希望や能力に応じて、支援を行なっている。以前から使用していた財布を利用したり、買い物の際は自分で支払えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	必要な際には、電話連絡やFAX、電子メールを使用している。手紙は隣接した施設にポストがあり、いつでも利用できる。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用部は落ち着いた色でまとめられている。花や絵などを飾り、温かい家庭の雰囲気作りに努めている。	フロアには季節感あふれる飾りつけがされています。廊下で日なつたぼっこをしたり、リビングダイニングで入居者同士談話をしたりと、思い思いに心地よく過ごせる共用空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室やリビングを利用し、一人でリラックスできる空間や、気の合う仲間での話を楽しむことができる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者が慣れ親しんだ家具や、生活用品を使用し快適で安心出来る環境になっている。	各居室の入口には、表札の代わりに花の名前が付けられています。テレビや家族の写真など思い思いの品を持ち込み、自分らしい居心地のよい居室づくりをされています。専用の洗面台も設置され、洗面や身支度など気兼ねなくできるよう工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレを解りやすくする為の案内や、入浴時間にはのれんを出したり、居室には大きな表札を付け、入居者の混乱が少なくなるように努めている。		

V アウトカム項目 (1階)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営（2階）					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員の話し合いにより、利用者の日々の快適な暮らしに不可欠な要素として『おいしい・たのしい・こちいい』が取り上げられ、グループホームの独自の理念として掲げ、実践している。職員会議で実施状況を検討、改善につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、町内清掃や各種行事へ準備も含めて参加し交流を深めている。地区の役員を務め、役員会に参加し、地域との情報交換を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	職員に認知症サポーターを2名配置し、認知症の人の理解や支援方法を、地域の人々に向けて活かせるよう備えている。事業所見学会（相談会）を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者の家族、地域代表、公民館館長、消防署、地域包括支援センター等、多くの関係者の参加を得て、2ヶ月ごとに1回開催し、意見をサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議で事業所の実績やケアサービスの報告を文書にて定期的に行なっている。 市町担当者には、案内状、電話連絡を行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>虐待防止と合わせて、身体拘束の勉強会を行い、職員の意識を統一し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。鍵を掛けることの弊害は理解しているが、玄関の外はすぐに階段になっている為、危険防止の為玄関ドアはロックしている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止の勉強会を設けている。年2回職員で身体拘束について、細かい項目のアンケートを行い、日々のケアの振り返りを行なっている。また利用者の身体的な変化に、各職員が報告書を提出し、防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>広島市の出張講座を利用し、定期的に勉強会を開催している。また家族関係者に周知し、活用できるよう支援している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時、解約時には、契約書、重要事項説明書をもとに、利用者や家族などの不安や疑問点を聞きながら、十分な説明を行ない、同意書をいただいている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>サービス担当者会議や運営推進会議にて、入居者の個別担当者、管理者が家族の意見・要望を聞き、全職員に周知し運営に反映させている。外部者として、苦情相談窓口を設置しており、意見を表せる機会を設けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>管理者は常に職員とのコミュニケーションを取り意見を聞いている。日々朝礼、伝達ノートを利用したり、定期的にアンケート実施や職員会議で意見、提案を収集し検討して現場へ反映させている。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>各職員の勤務状況を把握し、年2回人事考課を行なっている。面接を経て、評価を賞与に反映し、職場環境、条件の整備に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>各職員の能力に応じて、外部研修の参加を推薦、内部勉強会を定期的開催し、スキルアップを図っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>グループホームの外部研修などで仲間作りを行い交流する機会を設けている。法人内でも相互研修を行いながら交流をしており、サービスを向上させる努力をしている。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>面談時、アセスメント表等を使用し、生活の中での不安や困っている事を十分に聞くようにしている。サービス利用開始時期には、特に気を配ってコミュニケーションを取るようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用前の見学や入居時に、十分な話が出る時間を設け、グループホームでの生活について、不安な事や困りごとを聞き、アセスメント表に記録し、求められている事を把握するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受ける際には、利用者の状態と共にグループホームを希望している場合が多い。面談にて他のサービスが必要な場合には、家族と十分な話し合いの上で、他の支援機関への連絡、利用への援助を法人パンフレット等使用し、行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活では本人のペースを尊重し、職員は寄り添う形の介護を行なっている。人生の先輩として、教え教えられ、助け合いの精神を重んじ信頼関係を築いている。また認知症の勉強会を行い、暮らしを共にする支援方法を学び活かしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員と家族によって、入居者の生活を支えているという共通認識を持っている。職員が利用者、家族の役割を奪わないよう利用者と家族へ連絡、相談を心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居前の生活環境を把握し、本人の生き方、大切にしてきたものを理解する。家族や親戚、友人に遊びに来てもらえるよう声掛けを行なっている。また手紙や電子メールを利用し、遠く離れた家族や、知人に連絡をとる機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の関係を考慮して、リビングの席位置を決めている。利用者が孤立しないように、集団レクへ参加を促している。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	グループホーム退居後は、法人内の施設を利用する事が多い為、必要時にはいつでも連絡が取れる体制になっており、家族の相談、支援に努めている。行事等での関わりも多くある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者一人一人の希望を、生活へ反映できるように、細かい聞き取りを行い、希望の把握に努めている。困難な問題も施設の問題として取り上げ、前向きに検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者、家族からはもちろんのこと、本人が関わった居宅や施設から情報提供してもらい、生活歴等アセスメント表等へ記録し、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日のサービス内容を、個別のケース記録へ項目別に行ない、心身状態、能力の把握に努めている。また朝昼夕に申し送りを行い、入居者の現在の状態把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>三か月に一度カンファレンスを行い、本人・家族と話し合い、意向・希望を取り入れている。主治医や看護師等の意見も参考に介護計画を作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>介護計画の実施状況を日々チェックし、詳細の記録を行なっている。1か月毎のモニタリングを行い、継続が困難な場合は見直しを行なっている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人・家族の希望に対しては、本人・家族の状況を踏まえて、可能な限り実現できるよう努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>ボランティアとの交流や地域行事に参加している。近隣スーパーへの買い物や理容院を利用し、地域資源の活用を行なっている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>隣接のクリニックが協力医療機関であり、本人・家族の了承を得てかかりつけ医となっている。事業所と良好な関係を築き、適切な医療を受けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>協力医療機関と訪問看護の契約をしており、入居者と馴染みのある看護師が、入居者の健康管理を行なっている。職員の相談に対しても助言をしてくれる。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した時にはグループホームでの生活状況を情報提供している。入院中も医療機関、家族との連絡を密に取り、早期退院に向けた話し合いを行ない記録している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>契約時に重要事項説明書にて、ホームとしての指針を、家族・本人に説明し同意を得ている。協力医療機関ふくだクリニックと医療連携体制契約を結び、支援に取り組んでいる。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>緊急対応、事故防止の勉強会、緊急連絡網の訓練を行なっている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>防火管理者を選任し、外部研修に積極的に参加している。非常災害の勉強会を行い、実際の避難方法を日中夜間を想定して訓練している。地域とは防災協定を結び協力体制を築いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者一人ひとりのプライドやプライバシーを損ねない様、個別に応じた声掛けや対応を行なっている。入居者の人格をより尊重し、プライバシーを損ねない様、プライバシー保護の勉強会を行なっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中で、職員は常に入居者の希望を聞きながら支援するように努めている。決定事項があれば、入居者と相談し、意向を可能な限り取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の身体的・精神的ペースを考え、入浴・食事・外出などの生活を送ってもらっている。職員は入居者の言葉を傾聴し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎日同じ服装にならないように、季節や行事などに合った服装で過ごせるよう支援している。外出の機会を設け、おしゃれができるよう出張理美容を利用して、パーマや毛染め等、好きな髪型を楽しむこともできる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	それぞれの得意分野で、調理、配膳、準備、片付けを行なっている。日曜日には利用者アンケートにてメニューとおやつを決めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>それぞれの食事形態や、介助方法などを職員間で統一し支援を行なっている。食事量の少ない方は、本人の嗜好も取り入れながら摂取量が上がるよう努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>食後には口腔ケアを促している。本人の能力に応じて、見守りから介助を行なっている。必要があれば、協力医療機関へ往診を依頼している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェック表を利用し、それぞれの入居者に合わせたパターンを検討し、排泄誘導を行なっている。排泄前のサインなど、職員で情報共有し失敗等を少なくするよう努めている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>個別に水分補給や運動を取り入れ、ヨーグルトやヤクルト等を摂取している。必要であれば温罨法、腹部マッサージを行なっている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴日は時に決めていない。入浴時間は日曜日以外の午後となっているが、その日に入浴を希望される方と相談しながら時間を決定している。また入浴そのものが楽しみになるよう、入浴剤などを使用し、季節風呂を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活習慣に合わせて、日中の活動を促し、生活のリズムを整え、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援  一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	敷地内に薬局があり、薬の用法等について定期的に指導(薬剤管理指導)があり努めている。服薬後の利用者の状態を申し送るシステムがある。新しい薬や、変更があった場合には、医師・薬剤師・看護師から用法・用量・注意点を聞き、伝達ノートで伝達を行なっている。症状の変化・確認も申し送りで行なわれ、記録へ残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者の得意分野を活かし、毎日のレクリエーションを取り入れている。日常生活の中でも入居者皆で出来ることや、個人で出来ることを探し、共に喜びのある生活を送っている。嗜好品も可能な限り提供できるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩をはじめ、行事としてドライブや買い物へ出かけている。利用者、家族の希望を会議で把握し、行事へ活かしている。家族や地域の協力を得て、外出支援を行なっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとりの希望や能力に応じて、支援を行なっている。以前から使用していた財布を利用したり、買い物の際は自分で支払えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>必要な際には、電話連絡やFAX、電子メールを使用している。手紙は隣接した施設にポストがあり、いつでも利用できる。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用部は落ち着いた色でまとめられている。花や絵などを飾り、温かい家庭の雰囲気作りに努めている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>居室やリビングを利用し、一人でリラックスできる空間や、気の合う仲間での話を楽しむことができる。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居者が慣れ親しんだ家具や、生活用品を使用し快適で安心出来る環境になっている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>トイレを解りやすくする為の案内や、入浴時間にはのれんを出したり、居室には大きな表札を付け、入居者の混乱が少なくなるように努めている。</p>		

V アウトカム項目（2階）			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム げんき福田

作成日 平成 25 年 4 月 27 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	アンケート	グループホームでの感染対策等, 家族へ分かり易い内容では無いため, 周知できていない。	グループホームの活動の透明性を図る。	面会時, ホームたより等を活用し, ホームの取り組みの周知を行う。	3か月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。